

## 第2回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

### 1 開催日時

平成29年7月31日(月)10:00~12:00

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室(広島市中区国泰寺町一丁目6番34号)

### 3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島市立大学広島平和研究所 副所長	水本 和実
特定非営利活動法人ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者(平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事)	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

(計9名、欠席なし)

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査、主事

株式会社JTB中国四国営業企画課長、地域交流推進課ディレクター(計6名)

### 4 議題

- (1) 第1回懇談会における意見交換の内容
- (2) 第1回懇談会における意見を踏まえたヒアリング等の調査について
- (3) 意見交換

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

2名

### 7 会議資料名

資料:ピースツーリズム推進懇談会(第2回)

### 8 発言の要旨

(原田座長) まずは事務局から本日の資料の説明を先にしていただき、後ほど皆様から忌憚のない御意見をお伺いできればと思う。

《事務局から資料に基づき説明》

## ◆第1回懇談会における意見交換の内容

- (原田座長) 前回の議論をみると、発言内容が広範囲に広がっていると痛切に感じている。この懇談会の結論的には、経済観光局が所管するが、市役所の各セクションにまたがっている。従って、それだけ重い会合になってくると思っている。こういう会合を始めたのは今回が最初だろう。真剣に議論していただくということは、広島市の行政にとって大きなプラスになるのではないかと。それでは、まず第1回懇談会における意見交換の内容について、補足などあれば発言してほしい。
- (平尾委員) 場所について、前回の会議後に近い仲間と話をしていて、おりづるタワーを活用できないかという話があった。JTBも関わっていらっしやるので何かうまくいかないか。本当にジャストアイデアだが入れていただきたい。
- (辻委員) 事務局に方向性が見える形でまとめていただいた。ただ、座長がおっしゃったように、かなり広範囲に色んなことがある。ピースツーリズムとなると広島が永遠に追求していかなければならない所があるので、この懇談会でできるのはここまで、次にどこがどこまでということまで、また先の方向性の話になるが、踏み込んで話ができればと思う。
- (前田委員) ピースツーリズムという枠組みの中で、原爆・平和に絞っていくべきなのだろうが、私個人の関心として補足したいことがある。平和ということについて人は色んなことを思うのだが、その中には、原爆・戦争によって人の命が失われるということもあれば、自然が破壊されるということもある。ここで取り上げるのは難しいかもしれないが、原爆・平和に関連して自然を想起する人に対して紹介する選択肢の中に、例えば芸北には豊かな自然があり野生動物もたくさんいるといったこともあるとよいのではないかと。
- (渡部委員) ARコンテンツとは何か。インバウンドとは何か。
- (事務局) インバウンドとは外国人旅行者を誘致するということを意味する単語である。ARとは拡張現実、スマートフォンなどをかざした際に今ある風景に何かを重ね合わせる技術のことであり、このような技術を活用してはどうかという御提案である。
- (渡部委員) 皆が分かる言葉を使った方がよいと思う。市民の皆様にも懇談会の様子を御理解いただき、ご意見もいただければ嬉しい。被爆体験が原点になることが、大変大切なことだと思う。広島の平和のエネルギーの原点は、亡き人への思い、慰霊であるということ、常に心に留めてピースツーリズムについて考えていきたい。海外の人達にこの思いをきちんと伝えることも、大切なのではないかと。
- (古谷委員) 5月と6月に外国のお客様、特にアメリカ人が多かったのだが、クルーズ船のご案内を2週間した。最後にどこが一番印象に残ったか聞くと、アメリカの名門大学の同窓生が、広島だと答え、資料館を見る時間が短すぎた、もっと時間を費やしたい、特に現在のような社会状況の中では広島の持つ意味が大きいといった話をされた。2回目に来られる方々にどういうことを提示できるか、どういうところを見ていただくべきかということはずっと思っていて、この会議の中で考えていきたいと思っている。
- (阪谷委員) 皆様から重要な御意見をたくさんいただいたと思っている。座長からこれだけのことをしようとする観光部局も大変だという御指摘があったが、庁内では、平和に関わる問題については、関連する部局が横断的に連携してやっという意識の醸成をしている。平和、観光だけでなく、他の部局も連携して、ピースツーリズムに取り組んでいくことができればと

思っている。

先日御提案のあった、市民の積極的な関与ということが、観光部門にとって特に重要だと感じている。かつては、観光は団体で行っていたが、今は環境が変わり、個人の観光が多くなってニーズが多様化している。訪れる場所も団体で行く場所とは違う場所となり、そこでは地域でコミュニケーションをとることが非常に重要になってくる。地域とはすなわち、そこに住む市民であり、市民の関与が重要になってくる。

(原田座長) 辻委員のおっしゃった今後の方向付けについては、私も気になっている。この懇談会のとりまとめにはおそらく来年の2月、3月までかかると思う。今から半年間かけて議論していただくことになるが、懸念するのは、貴重な御意見をいただきながら、来年度の市の予算に反映するのは難しいということだ。10月頃から予算編成事務が始まり、12月にはあらかじめ概要が出てくる。出来るならば、今回から10月頃までのご意見の中で、来年度の予算に反映できるものは各局において先取りして予算獲得していくことができないか。そうしないともう一年先、平成31年度以降になってしまう。また、今までもいろいろ提言をいただき、ほとんどが言いつばなし、聞きつばなしになっている。せっかく議論を今から始めるのであれば、このような提言をフォローする体制、どのように実現できるのか、どういう理由でできないのかと言う整理を事務局で進めていただきたいと思います。

#### ◆第1回懇談会における意見を踏まえたヒアリング等の調査について

(原田座長) 資料10ページのアンケート調査において、来広回数が2回以上が7%しかいないのは課題ではないか。広島はこのような悲惨な体験を繰り返してはならないというメッセージを発信するのは当然なことだ。しかし、それがあまり強くなってくると、結果的には旅行者はまた来ようとは思わないということになりかねないという気持ちもある。

次の広島の印象については、非常に良いと良いをあわせると約95%の方が広島に好印象を持っている。11ページを見ると、ホームページから情報を得ている人は半数程度しかいない。広島市のホームページは非常に見にくい。情報がたくさんあるからそうなるのかもしれない。平和記念資料館（以下「資料館」）のホームページもどこに何があるか、情報が盛りだくさんで検索が大変である。導入段階で何かをプラスすれば、ホームページがもっと使いやすくなるのではないか。次に、市内滞在中に困ったこととして“言葉”を挙げた人が約11%となっている。これは外国人を対象に行ったアンケート結果であるが10人のうち9人は言葉に困っていないということであり、驚いている。英字標識をどう思うかで“通り”の英字標識が分かりにくいと回答した人が比較的多いが、確かに分かりにくいと思う。広島の人にとっては、例えば城北通りや城南通りはお城の北、南だと見れば分かるが、“Johoku-dori Ave.”というのが外国人に果たして通用するのか。元安橋のたもとの信号機は歩車分離式なのだが、「歩車分離」と書いてあっても外国人には分からない。歩車分離であることの必要性の議論も要るだろうし、もし歩車分離のままなら英語表記もしないと外国人には分からない。

(渡部委員) 3年くらい前だったか、「外国人のためのおもてなし講座」が経済観光局主導で行われた。私もそれに関わったのだが、その後どうなっているのか、多分やりつばなしになっていて、もったいないと思う。参加者は業者の方など含め幅広く、日頃外国人に接する方達だったので、ぜひその方達にアンケートをお願いしたい。講座の結果として、ホテルやショップなど

で外国人の方のお問い合わせに応えますという『ひろしま街角観光案内所 TRAVELPAL』マークがたくさん貼られるようになったが、実際そういう所に外国人が来ているのかどうか。とても良い講座だったので、行政の中で継続して活かされていると、良い御意見を聴くことが出来るのではないかと。

(古谷委員) 市内滞在中に困ったこととして“言葉”や“食べ物”とあるが、具体的にどのような事例だったかなどいくつかあれば、対応を具体的に考えられると思うが、そういう資料は残っているか。

(事務局) このアンケートの設問は、何に困りましたかという問いに選択式で答えていただくものだったので、詳しいことはヒアリングできていない。

(原田座長) ヒアリングの調査対象について、12 ページ以降に書かれている。まず、13 ページで外国人在住者及びゲストハウス等を書いているが、これはあくまで事務局と私も含めて、色々なデータ等から取り上げたものであり、この方々にこだわっているわけではない。御意見があればいただきたい。

(津村委員) 平和・原爆関係の団体になるのか行政機関になるのかはあるが、資料館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館(以下「追悼祈念館」)はぜひヒアリング対象としていただきたい。資料館には、原爆被害の展示等を行う学芸担当のラインもあれば、海外の原爆展や伝承者活用などを行う啓発のラインもあり、発信すべき内容や発信する努力、どんなことをしているかをぜひ聞いていただきたい。また、資料館だけでなく、ぜひ追悼祈念館も巡っていただく場として取り上げていただきたい。来館者は資料館の約2割くらいで、まだまだ集客努力が必要だと思っているが最近外国人も増えてきており、時間をとって熱心に体験記や証言ビデオ等を見ている方が多く、国際化は進んできていると思う。ぜひ、資料館とセットでルート設定していただけたらと思うので、その意味でもヒアリング対象に加えていただきたい。

(辻委員) ゲストハウス等とあるが、ゲストハウスはオーナーさんの思いでそれぞれパターンが違う。日本の文化体験などができるゲストハウスもあれば、単純に泊まるだけのゲストハウスもあり、もう少し数があってもいいのではないかと。また、阪谷委員がおっしゃったように市民の関与、今後の協力が必要なので、ヒアリング項目の中に「その他、ピースツーリズムについて御意見・御提案があればお願いします」と書いてあるが、「今後協力していただける事項がありますか」という問いを加え、例えば、ピースツーリズムのマップなどプロダクトができた時に、ゲストハウスに限らず各箇所が今後情報発信などに協力していただけるか聞く項目があった方がよいと思う。

(渡部委員) 先ほど追悼祈念館の話が出たが、追悼祈念館の存在そのものがなかなか知られていない。素晴らしい施設で中身も良いのに、見るべき施設だということが届いてない。繰り返し色々な機会に申し上げているのだが、非常にもったいないと思っている。追悼祈念館は、静かに考えることができる場であり、もっと知っていただいて訪れていただきたい。英語と日本語での朗読など色々な取組もされているし、上のがれきも、あそこで見ることのできる短いビデオも良い。たくさん宝がありながら、それが活かされていない。それから、資料館の展示について、やむをえない事情ではあると思うが、一次資料が1階の片隅に追いやられすぎていると思う。本来であれば、遺品を見てから上に上がっていただきたいのを、ガードマンさんがとにかくエスカレーターに誘導してしまう。ようやく地下をゆったりと見られるよう配慮され

たが、一番大事な一次資料があれば、これから8月6日を迎えるにあたって残念である。あそこに休憩スペースがあるが、休憩はあそこでなくてもよく、もっと資料を見ていただきたいという思いでいっぱいである。そういうことが、ピースツーリズムについて考えていくときに大事なのではないか。あと、映像文化ライブラリーも非常に良い取組をしているので、中に入れるとよいのではないか。

(原田座長) 追悼祈念館と資料館をヒアリング対象に入れていなかったのは、津村委員が総括していただけるだろうと思っているし、被爆者団体は前田委員のところで集約していただくと期待感を持ってこの中に入れなかった。事務局の負担がどんどん増えていくため数を絞った方がよいと思っているが、積極的に増やしたほうがよいとの御意見があれば、追加していけばよい。渡部委員が言われた資料館の問題は、色々悩ましい所もあるかと思う。このたび東館がリニューアルオープンし、いろいろな問題点が出てきている。今後本館のオープンまで1年あまりこのままにしておくのかどうか。片隅の方に最も大事な被爆資料が追いやられているということには同感である。資料館の職員達と時々話をするが、職員の中には、本館オープンまでの過程とは言えこれでいいのか一抹の不安を持っている者もいる。例えば、リトルボーイ（実物大の模型）が無くなっている。映像で展示しているが、実物大のものが上から吊るされて大きさが分かるし、これだけのもの一つであれだけの威力を發揮したということがより理解できる。長崎では実物大のファットマンが置かれている。職員にとっても悩ましいのだと思う。ホワイトパノラマは、最初に見た人は良いと思うのだろうが、被爆体験があって、このような仕事に関わってきた者からすると、いきなり原爆の威力の誇示が先に来てアメリカ側の上から目線では良くない。ジオラマは作りものだからやめようという意見もあったが、引率教員の意見の多くは今の展示ならジオラマが良かったと聞いている。水本委員が検討委員会の委員であるので、水本委員を通じて話すこともできるだろう。東館のあり方、今から組み立てられていく本館の内容について、この懇談会の意見として水本委員を通じて出していただくのも一つの方法かと思う。

他に、外国人在住者及びゲストハウス等へのヒアリングについて、御意見はないか。

(水本委員) ワールドフレンドシップセンターに聞くのはどうか。

(原田座長) 観音町にあるワールドフレンドシップセンターは、森下さんが非常に努力をしております良いと思う。

(渡部委員) 前のユニタール所長のナスリーン・アジミさんが、現在、修道大学の先生になっている。現所長もリストに入っているが、アジミさんは初代所長であり、また、非常に広島を愛している方で、大きな観点から御発言いただけると思う。

(原田座長) 外国人在住者の所に入れておくのでよいか。それでは、平和・原爆関係の団体等についてはどうか。

(前田委員) 古谷委員は懇談会の委員としてとは別に、ヒアリングしてはどうか。

(原田座長) 行政機関についてはどうか。

(辻委員) 観光行政の中国運輸局と、道路行政の中国整備局も、国としてインバウンドに取り組んでいるので、意見を聴いたらよいと思う。

(原田座長) 先週岩手県に行った。東日本大震災の遺構をどう残すかということについて議論が続いている。非常に広範囲にまたがっているため、県や市・町の間、大変な温度差がある。

遺構を残すことにやる気になっているところもあるし、復興の方が先であって遺構はその次でよいというところもある。広島がどうやって被爆建造物を残したかということについて話をしてほしいと依頼があった。約 40 団体の部課長たちが参加しており、いろいろな意見があった。広島のやってきたことが大いに参考になると思う。国土交通省や復興庁の職員たちもオブザーバーとして出席していた。宮城県では、石巻に復興記念公園を作り、岩手県は、一本松が残った陸前高田に復興祈念館と公園を作る。しかし、原発問題をかかえる福島は具体的なところに行っていない。広島の 70 数年の歴史と 6 年あまりの歴史は違うが、その中から何かを学ぼうという意欲のある市がある。

それでは、地元関係団体についてご意見はあるか。

(水本委員) もしかしたら行政機関になるかもしれないが、郷土資料館の村上学芸員や、広島城の秋政さん、郷土資料館元館長の沼田さんといった方々にぜひ聞いていただきたい。ピースボランティアは、曜日毎にグループが決まっています幹事がいるので、もし必要なら、代表幹事さんを通して、曜日毎の幹事さんにも声をかけていただければよいと思う。

(原田座長) 他に御意見はないか。また御意見を思いつかれたら、後ほど事務局にいただいても結構である。

#### ◆意見交換

##### ①前回懇談会以降に思いつかれた施設や場所(「場」)の提案

(原田座長) 平和記念公園の中は、事務局においてどこまで書いてよいか悩ましい面もあったようである。もちろん資料館や追悼祈念館があるのだが、ここでは韓国人慰霊碑、元の地盤の高さで残している旧慈仙寺墓石と、前回いただいた御意見を中心に書いている。色々な思いもあるかと思うので、これに加えたらよいものがあれば御意見をいただきたい。数が多くなっても、後で選択すればよいと思う。

(水本委員) 平和大橋と西平和大橋は加えてほしい。いずれもノグチ・イサムの設計であり、日系米国人として、原爆を落とされた日本人の痛みと、原爆を落とした米国人の罪悪感のどちらも理解しながら、設計をした橋である。

(渡部委員) 前回被爆樹木の話をした。広島市のホームページにも被爆樹木についてきちんと書かれているのだが、それをもとに現地に行き着くことが難しい。ざっくりとしたデザイン地図が使われており、この地図を見ただけでは、どうしても行き当たらない。これは先ほど座長がおっしゃった予算を付けてできることの一つではないか。私有地が難しければ、公共空間にある被爆樹木については、グーグルマップ等によりそこに行き着くことができ、じっくりと木を見ることができればよい。被爆建物もきちんと地図に落として、外国人が地図を見て建物に行き着くことができるという情報提供をしていただければと思う。それをホームページ上にアップして皆がリンクすればよいのではないか。

(津村委員) どのような改善ができるか検討させていただきたい。

(辻委員) これは Get Hiroshima の冊子で、ちゃんと被爆樹木について書いてある。すごく良い資料なので、このようなものを活用して地図にプロットしていただき、うまくまわっていただければと思う。

(渡部委員) 参考までに、その記事を書いたのはユニタールでインターンシップをしている、ア

ナリスという 24 歳の女性で、自分の足で歩いて被爆樹木を訪ねて書いた。

(水本委員) 広島県庁の南側にある被爆死した 12 名の米兵のパネルと、旧日本銀行広島支店も入れていただきたい。

(原田座長) 米兵のパネルは、少し場所が分かりにくいかもしれないが、意義のある場所だと思う。宝物産というビルの裏側に貼ってあるプレートで、小さなものなのでよく注意して歩かないと分からないと思う。

(渡部委員) ラ・パンセという裸婦像がある。非常に早い時期に市民がそれを作ったというのは、文化への憧れもあり、非常に象徴的だと思う。きちんと解説も付けて出すことが出来るとすばらしい。また、色んな団体が作った慰霊碑がある。慰霊碑は慰霊碑としてマッピングするなど、情報の出し方に工夫が要る。訪問者は、通常 1 日で来られると、資料館と追悼祈念館から半径 2 km 内のごく限られたところだけ訪れて帰る。次に来るときは、ここここを訪ねようと思って帰っていただくようにしたい。情報の出し方を重層的にして、1 日で帰られる方は、次回は、例えば三瀧の寺が非常によいので見てくださいとか、2 日間いらっしゃる方はここまで、もう少しいらっしゃる方には周辺の芸北や呉などを歩いていただけるように、次にはここに行こうと思って帰ってもらう仕組み、情報提供があればよいと思う。

(平尾委員) ピースツーリズム推進の目指す姿の方向性の中で、被爆の実相を伝えることを基本としており、その後に復興してきた広島の足跡と被爆前からの歴史や文化などを発信と続いている。歴史や文化については、頼山陽文徳殿など色々なものが出てきていて、もちろん被爆の実相についても色々なものが出てきているのだが、復興してきた広島の足跡を辿るということに関して、今ノーアイデアで申し訳ないが、そこも伝えていくべきであれば、何か実際に辿れる場所が必要ではないか。また、一つ一つの場所も大切であるが、ツーリズムとして回るのであれば、ストーリーが必要だと思う。どういう意図を持って回るかによって組み方も変わるので、まずはたくさん場所を挙げたうえで、どういうストーリーでその道を回るか、流れみたいなものを改めて考えたうえでそこを回るようにしたい。

(津村委員) これも PR が足りていないのだと思うが、市で「平和関連の展示施設等、被爆建物、被爆樹木等見学マップ」を作成して資料館等で配付している。これに掲載されていて、今日の資料に挙げられていないものとしては、被爆建物の原爆ドーム、レストハウス、旧日本銀行広島支店、広島アンデルセン、福屋百貨店八丁堀本店がある。福屋八丁堀本店は改修工事をされており、今年度から広島市も財政支援させていただく計画である。

(原田座長) 資料には、原爆供養塔が入っていない。それから、マルセル・ジュノー博士記念碑もある。被爆直後の難しい世界情勢の中で敢えて救援薬品を届けてくれたのは大きな業績だし、現在でも医師会を中心に碑前祭をされている。原爆の子の像ももちろん入っていてよい。さらに、外国人の立場で考えると、平和の石塚がある。これはイングランドの最高峰のネビス山から国際平和の親善のために石が届けられ、それを広島の地形のように並べて作られたもので、レストハウスの反対側にあり、ほとんど目に届いていないと思う。プレートはあるが目立つものではない。これは、イギリスから来た方にとっては、心に残るモニュメントではないか。広島を思いを十分に伝えるということからすれば、エドモンド・ブランデンの碑が中央図書館の北側にある。すばらしい詩碑であるが、管理が行き届いていない。渡部委員がおっしゃった樹木については、一番見てほしいのは鶴見橋のところにある柳の木である。腐っていたのを中を

くりぬいてコンクリートで補強してきた。新しい幹が成長して今でも元気であり、ぜひ加えていただきたい。鶴見橋周辺ではたくさんの動員学徒が亡くなり、それを目の当たりにしたのがこの柳の木であり、そういったことを含めたストーリーを記した説明板があれば訴える力が強くなる。あと、中国軍管区司令部跡、大本営、御便殿などもあってもよいのではないか。宇品の軍用栈橋が今どうなっているのか分からないが、一部残っていないか。元の宇品線の終点到倉庫があったが、その倉庫のレンガを使ったモニュメントが南道路のところに設置してある。国泰寺・千田地区では、前回は申し上げた栗原貞子の生ましめんかなの舞台となった広島貯金支局のあった場所が今はマンションになっているが、その前に説明板がある。横を向いて寂しく立っていて残念であり、もう少しまわりがきれいになるとよい。原爆罹災説明板は相当劣化している。最近ではアルミでしっかりしたものがあり、プレートだけ替えればよいので、補修が必要だと思う。広島駅周辺地区に関連して、少し話しがそれるかもしれないが、饒津神社や東照宮などを巡る「歴史の散歩道」がだいぶ整備されて、めいぷる～ぷもここを通る。饒津神社から鶴羽根神社、東照宮と歴史の散歩道を走ってずっとまわれるとよいが、道が狭く通りにくいようで、その一部を通るだけになっており、運転手に聞くとこの間では誰も降りないそうだ。せっかくここまでしているので、もう少し整備すればめいぷる～ぷも生きてくる。あと、比治山の市街地が一望できる展望台が樹木によって遮られほとんど見えなくなっており、平和の丘構想においてできるだけ早く整備されるとよい。NHKには、NHKの旧建物の一部がモニュメントとして設置されているほか、福岡県に残した原爆の火を持って帰ってきているのではないか。

(辻委員) めいぷる～ぷの地図を見ると、事務局が落としてくれたプロットと重なる。ルート等を考えるのであれば、統計によると県外から来られる方の60%くらいは広島駅を使われるので、たくさん行っていただきたい場所はあるのだが、駅から始まってこういうところがありますという方法もよいのではないか。結果を急ぐわけではないが、懇談会で話したことを残す形として、めいぷる～ぷピースバスみたいな形で、この出発便はこういうところをまわりますと先にガイディングしておいてから、降りてゆっくり見ていただくというのが何コースかあるとよいと思う。例えば、頼山陽文徳殿のところにもバス停を増やしてもらおうといった工夫もあれば、訪れてもらえると思う。

(原田座長) めいぷる～ぷについて残念なのは、現代美術館を経由する便が1時間に2本が1本になった。その分レモンルート便が新設されたが、現代美術館は重く受け止めているようだ。また1時間に2本に戻るように、現代美術館にはしっかり発信してもらわないといけない。運転手に聞くと、1時間に1本となると、旅行者が1時間後までどう時間を費やすのかという問題があり、運転手にとっても耐えられないと聞いている。現代美術館の案内表示では、美術館があるというだけで、そこで何をしているのかということが書いていない。欧米の方は現代美術に関心を持っている人が多いようだし、もっと発信力を高めるべきである。また、難しい現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような展覧会も企画していくべきだろう。

## ②前回懇談会の意見交換を踏まえた目指す姿の方向性(案)や今後の検討の方向性(案)にかかる意見・提案



- (水本委員) 被爆建物の建築家の視点でのスタディツアーを企画しているアーキワーク広島というグループの、建築家の高田さんをヒアリング対象に加えていただきたい。あと、千田公園から御幸通において、明治以降宇品港開拓から広島がいかに軍都として発展してきたかが現地をまわると学習でき、郷土資料館の学芸員さんが教えてくれるのでぜひヒアリングしていただき、宇品エリアも認識していただければと思う。あと、復興の視点で、基町高層アパートエリアも加えて欲しい。住民がおられるので、観光の視点で回るのは失礼だが、周辺を回ったり、事前に許可を得て静かに見学するのは可能なので、この辺も一つのヒントになるのではないかな。
- (平尾委員) 目指す姿の方向性案について、良いなと思って読んでいたのだが、途中の「広島の平和への取組をより多くの来訪者に伝え、より深い理解に結び付け」というところについては、取組自体を伝えるのか、それとも取組を通してより深く理解してもらおうのか。取り組んでいる活動の内容を知ってもらうことが目的ではなく、それはあくまで手段なのではないかとも思う。取り組んでいる内容によって、来られた方に理解を深めていただくことが目的ではないか。
- (辻委員) 現代美術館の隣りにまんが図書館があり、外国人にはそちらの方が興味を引くかもしれない。
- (津村委員) 平和推進の担当として、平和を強調していただいてありがたい。感想として、2つ目のパラグラフは、目指す姿というよりは手段・方策なのではないか。むしろ、今後の検討の方向性の3つ目に書かれている、“旅行者と市民の双方が関与する心が動かされるピースツーリズム”というのが目指す姿として一つの大きな柱なのではないか。
- (前田委員) 1回目の懇談会からルート設定をメインに考えておられるという印象を持っているが、それに違和感がある。基本としてルートを設定することが第1にあるというのは賛成だが、色んな観点が人にはあり得るので、その観点到ったルートをいくつか設定すべきではなからうか。あるエリア、ある関心事を観光客が選び、それを選ぶとその人の要望に応じたものが出てくるというシステムがあるとよいと思う。ルートだけにこだわるのではなく、例えば水本委員がおっしゃった宇品地区においても、被爆の痕跡をとどめたもの、人の行いに関するもの、まつわるストーリーに関するものというように様々な事象があり、一つの物事・場所に色んなインデックスが付き得る。あるエリアについて、観光客の関心に沿ってインデックスを手掛かりに物事・場所を抽出して示し、そのエリアで「こんなこともできますよ」というふうを持って行くのがベターではないかと思う。
- (渡部委員) “広島の平和への取組”とは、読み替えると被爆後から今日までの“市民の物語”だと思う。被爆してから72年間の市民一人一人の物語を伝えることが大事ではないか。広島の平和への取組ではあまりに平板であり、広島市が平和行政でやっていることではなく、街に生きてきた人達の物語を色んな形でお伝えして、来ていただいた人と市民が人として出会って、平和への思いだけではなく、ともに行動できるというところまで、目指す姿に入れたいと思う。これまでの中で肝心の2つが落ちている。カープとお好み焼がどこにも入っていない。そういうことも市民の物語の中で出てくるのではないかな。
- (古谷委員) “復興してきた広島の足跡”ということで思い出すのは、広島から海外への移民の人達のことを忘れてはいけないということだ。ハワイで話される日本語は広島弁だが、そういう歴史が残されていない。山口県の周防大島にある移民の博物館にはきちんとした資料があるが、広島には無い。1960年代の日本の経済が復興している時、私にもハワイに親類がたくさん

んいるが、彼らが色んなものを送ってきてくれて、それが広島復興のエネルギーになったと思う。広島カープについても、カープがきちんと始められたのは、日系アメリカ人の大きな支援があったからだと思う。ジョー・ディマジオと結婚したマリリン・モンローが広島に来たということも、財政困難だった広島カープだけでできたわけではないので、広島出身の移民の人達が大きく貢献したと思う。そのあたりのこともきちんと残してほしい。浄土真宗のお寺の関係の組織でも、色んな物資が送られてきたということを読んだことがあり、そういうこともどこかに入れるべきではないかと思う。“広島の平和への取組をより多くの来訪者に伝える”ということについて、アメリカの高校生だったかと思うが、平和首長会議について話をしたことがあった。参加国が160を超え、7,417都市が加盟している。加盟都市の人口をあわせると、地球の人口の7分の1になると説明すると、どうやったら登録できるのか、帰ったら自分の街の首長に言いたいと言われた。平和文化センターの評議員をやっているの聞いてみると、パソコンでアクセスすると出来ますよとすごくお手軽におっしゃる。それは違うと思う。今の世界状況下、草の根の人達の思いを確実に伝えるため、平和首長会議の取組をきちんと力強いものにして、こんなことができるということを資料館を訪れる方達に認識させることが大事だと思う。

(阪谷委員) 皆様から御発言のあった内容について、少し頭を整理して、具体的にどこまで書けるか、皆様の思いを汲み取らせていただいた形になるよう、事務局や原田座長と悩んでみたい。

(原田座長) 目指す方向性の整理も必要だが、具体的にどんなことができるかということが、この懇談会では問われている。平和首長会議については、職員が色々努力しているが、なかなか中身が伴わない。たくさん都市が平和首長会議に加盟しているが、実質的に何の事業もしていない、加盟することに意義があるという市や町もあり、まだ浸透していない。しかし、7,000もある都市に浸透させるのは至難の業である。昨年からは会費を取り始めたが、約1,500の国内の都市から取るのも大変であり、まして5,000を超える海外団体から会費を取るのは、大変だと思う。そうかといって、広島市の財源だけでできるのか。広島市行政の基本は市民のための行政であり、そこも考えないといけない。一方、世界に向かって発信するということと、どう整合性をとってやっていくかは課題だと思う。平和事業は、市だけでなく、市民がなされている事業についても、これを大きく展開することによって、広島の思いが伝わり多くの方を迎えることにつながる。方向性について色々な御意見をいただいたので、事務局で整理していただき、次回につなげていきたい。

### ③その他意見交換

(前田委員) 資料20ページの今後の検討の方向性についての中に、「被爆の実相を守り、広め、伝える」とあるが、“守り”には何か意味があるのか。読んだ時に違和感を持った。ヒアリングの対象については、一人だけ推薦したいのが、安彦恵里香さんという平和公園近くでカフェを開いている人で、ピースボートで世界を巡ったこともある人だ。

(水本委員) 被爆樹木については確か緑政課で詳細なマップを作っており、慰霊碑についても色んなマップが出ている。既存のものとのリンクをはる事も可能だと思うので、マップ類のサーベイを事務局でしていただきたい。

(渡部委員) 建築家の錦織亮雄さんのお話は非常によいのではないかと。被爆者でもあるし、お訪

ねいただければと思う。先ほど前田委員が紹介された安彦恵里香さんや、この間亡くなられたスワローテイルの方など、若い方達が発信の場所を自分達で作っている。例えば安彦さんを介してそのような方々に集まっていただいて、発信の場について御意見を聴いていただくとよいのではないかと。

(辻委員) 情報発信もだんだん難しくなっていて、インスタグラムではハッシュタグというキーワードを入れると、検索されて色んなところで発信される。ルートの設定にあたっては、テーマ性を持ったヴァーチャルルートという形もあってもよいのではないかと。ただし、実際には生身の人に来て、時間の制限もあるので、たくさん知ってもらいたいところがあるのだが、従来の被爆樹木の説明の地図や被爆建物の地図では訴求力は無く、選択は難しいかもしれないが、これはという核を知っていただかないといけない。全部ですでは、県外から来る人は時間が無い。このテーマで来た人にはこのコース、このテーマに関心がある人にはこのコースといった形でないと、地図1枚に落とすという形では懇談会の意見が反映されないと思う。事務局には、平面ではなく立体的に考えていただき、情報発信の方法を考えていただきたい。

(原田座長) 今日色々御意見をいただいて盛りだくさんで、事務局も大変だと思うが、次回とりまとめてお伝えしたい。話はずれるかもしれないが、供木運動によって平和大通ができた経緯や、千田廟公園にある千田貞暁公の銅像、御幸通がなぜ御幸通になったのかなど、いろいろな切り口があり、長年広島に住んでいる者にとってはごく当たり前のばかりだが、このたび改めて問題提起をされたということは極めて大きな意味があり、それが広島を発信するという事に繋がると思う。もう一つ、広島駅の列車の到着メロディーとして、カープの歌やひろしま平和の歌が流れないかとずっと前から思っている。関係部局では努力してもらっているが、JRがなかなかその気にならない。全国歩いてみるとあちこちでご当地のメロディーが流れている。例えば、高田馬場駅では鉄腕アトム、恵比寿駅では第三の男、木更津駅では証城寺の狸囃子が流れるが、なぜ広島新幹線ホームで銀河鉄道999なのかと思っている。これも一つの広島のPRになるのではないかと。

(阪谷委員) 前回と今回の皆様の意見を聞いて、今からルートを設定することになるが、行く場所、場の中身も非常に重要ではないかと改めて感じた。例えば今日御意見のあった資料館もそうである。次回以降、中身についても御提案いただきたい。座長から話のあった来年度の予算については、予算がないとできないことばかりではないと思うので、予算がなくても市役所が皆さんと協力しながらできないか、どう汗をかけるかということも早いうちに考えてみれば、違った展望が開けると思う。

(原田座長) めいぶる〜ぷは市民が使えるようになると、バスの中で市民と国内外からの来訪者との交流の場になると期待感を持っている。もう一つ、富山市の例で、市内に泊まった人は市内電車が200円のところが100円と半額になり、半額チケットはどのホテルにも置いてあり、とても得した感じになる。広島は旅行者が多く難しいのかもしれないが、そういったことも考えていく必要がある。広電も時間制チケットの検討など色々なアイデアを出しているようだ。国内外から来る人へのおもてなしにつながるものを作るきっかけになることができればと思う。予算の議論については、予算があってもなくてもできることをしようということだが、今日いただいたご意見を見ると、たくさんのセクションにまたがる。昨日広大旧理学部の裏に行ったが、草木は伸び放題で、建物はガラスが壊れていてあまりにもひどい。いつまで放置する

のか、なかなかそこまで踏み込めていない。被服支廠の問題についても、被服支廠の保存を進める会ができて何年も取り組んでおられるが、県がなかなか動いてくれない。4棟もあるので全部残すのは難しいと思う。例えば1棟だけ残すなど、色々な意見があると思うが、それを聞こうという姿勢が県に無いようだ。市民局など関係部局が力を合わせて前に進むようにしていく必要がある。72年経って、もう今のままでよいというのではなく、このような懇談会を作ったのはそこが目的だと思う。効果のある意見としてまとめていきたい。

(古谷委員) めいぷる一ぷに市民は乗ることができる。1回あたり200円だったかと思う。

(原田座長) 市民と一緒に乗って会話ができる場になればいいなと思う。

(渡部委員) 平尾委員がおりづるタワーの活用ということを話されたが、一つ気になっていることがある。昨年の8月6日の夜に展望フロアの電気が付いていた。原爆ドームの上に人間が立っている姿が夜空に浮かび、足元でどうろう流しが行われている。悪意があるとは思わないが、そのような見え方についても、業者のみなさんと話し合う場ができればよいと思う。

(原田座長) あそこはバッファゾーンであり、あのようなものがあってもよいのかという議論もあると思う。また、上から見るとというのがよいのかどうか。原爆ドームは下から見上げるものだとは私に思っている。上から見て素敵な街だということだけでなく、広島がどういう状態であの日に迎えたのかということが伝えるべきことだと思う。むしろ多くの議論のあった商工会議所の方が黒一色で、背景としてはこの方がよいとさえ思っている。

(水本委員) 旅行者は、ショッピングもするし、食事もあるし、アミューズメントも必要なので、平和関連のマップとは別に、マツダスタジアムなどアミューズメント系のマップもあっていいのではないか。旧西国街道の本通やお好み村などをはじめとする商業施設を、宣伝目的ではなく広島の今の姿としてさりげなく紹介することも意義がある。学習目的の平和マップと、楽しむ目的の平和マップの、2本立てでよいのではないか。

(平尾委員) 復興してきた広島の足跡とはどのような場所で感じればよいのかと話したが、渡部委員からお話のあったお好み焼きやカーブ、水本委員のおっしゃった本通の変遷にこそ力強さがあって、人間の生きる営みを感じるものであり、そういった場所を中心にお伝えしていくことが、今の広島について考えるきっかけになると思う。

(渡部委員) NHKの協力をもっと得たい。NHKは素晴らしい広島市のアーカイブを持っており、もっともっとご協力いただきたい。NHK1社には限らないかもしれないが、そういった所から映像を含めてピースツーリズムに協力が得られれば、もっと活きるのではないか。

(平尾委員) おりづるタワーについて、見え方に関して、我々の世代でも議論はある。だからこそ、関わっていただいたらよいのではないかという気がしている。どう関わってもらうか、また広島にとってどんな場が相応しいかということ、一緒に考えていくことが大事ではないか。

(事務局) 目指す姿の方向性や検討の方向性については、今日の御議論をもとに事務局で整理させていただきたい。ヒアリング調査の相手方や項目についても御助言をいただいたので、そういった方々にヒアリングを進めていきたい。

(原田座長) 皆様から御意見をたくさんいただいて、広島市の今後の行政のあり方につながるような方向も見えてきている。結果としては市役所のほとんど全局に繋がっていくと思うが、2人の行政委員が加わっているので中心になって調整していただきたい。